

中国の記事から（畜産）

2006年9月10日号

目次

- ◎米国の中国向けの大豆輸出は減少の見込み
【中国貿易報 2006年09月01日】
 - ◎「ヒト用鳥インフルワクチンは安全、効果的」
【中国医薬報 2006年09月05日】
 - ◎国家質検総局「肉デンプ、ソーセージの合格率は78%」
【国際商報 2006年09月05日】
 - ◎国家工商総局「乳製品の合格率は89%」
【市場報(人民日報主編) 2006年09月06日】
 - ◎畜産業の生産高が1.3兆元に
【経済日報 2006年09月06日】
 - ◎乳業大手の蒙牛、上期純利益が4割増の3.4億元記録
【経済日報 2006年09月07日】
 - ◎日本が中国産ハチミツの検査を強化、クロラムフェニコール検出で
【国際商報 2006年09月08日】
-

◎米国の中国向けの大豆輸出は減少の見込み

【中国貿易報 2006年09月01日】

米国大豆輸出協会(US Soybean Export Council : USSEC)の中国事業責任者Phil Laney氏は、中国人の生活水準向上、魚、豚肉の消費量増加などにより家畜用飼料、食用油などの原料となる大豆消費量も急増していることを明らかにした。このためアメリカの中国向け輸出額も増加、2005年は2001年より80%増の23億ドル(海運)に達した。アメリカ農務省は、南米諸国が中国市場を開拓しているために、2005～2006年度の中国向け大豆輸出量は前年度の1180万トンから950万トンに減少すると予測している。中国は1990年代中期、WTO加盟のため大豆の輸入関税を3%に引き下げ、これが大豆輸入の急増を促した。

◎「ヒト用鳥インフルワクチンは安全、効果的」

【中国医薬報 2006年09月05日】

医薬メーカー・北京科興生物製品有限公司、中国疾病予防センターは、8月28日、共同で実施するヒト用鳥インフルエンザワクチン第1期臨床試験の結果を発表、同ワクチンは安全で効果的であることを明らかにした。国家食品薬品监督管理局は2005年11月に中国が自主開発した同ワクチンの臨床研究を認可、同年12月に臨床試験ボランティア6人がワクチン接種を受け、2006年6月までに試験を完了した。その結果、試験に用いた4種の分量のワクチンはいずれも人体内で一定の抗体を作ったことが確認された。特に10ミリグラムを投与した時、抗体発生率は78.3%と効果が最も高かった。

また、ワクチン接種した120人の被験者には大きな不良反応は見られず全身・局部観察でもワクチンは人体に安全であることが確認されている。

◎国家質検総局「肉デンプ、ソーセージの合格率は78%」

【国際商報 2006年09月05日】

国家質検総局(国家質量監督検閲検疫総局。製品品質を管理する)は、河北省ら13省(直轄市、自治区)で肉デンプ、ソーセージメーカー65社の82製品を対象に行った品質サンプリング検査の結果を発表、合格率は78%となったことを明らかにした。高品質と評価されたのは南京雨潤食品有限公司(江蘇省)の「旺潤」ブランドソーセージ、河南双匯投資発展股分有限公司の「双匯」ブランドソーセージ、南京桂花鴨(集団)有限公司の「桂花」ブランド肉デンプである。

一方、不合格製品では食品添加剤の使用量、微生物含有量が基準をオーバーするなどの品質問題が目立っている。太倉明星食品有限公司生産の「明ホウ」ブランド肉デンプ、龍海市華達富肉製品廠の「偉君」ブランド肉デンプなどが不合格となっている。

◎国家工商総局「乳製品の合格率は89%」

【市場報(人民日報主編) 2006年09月06日】

国家工商総局は、フフホト市(内モン自治区)、通遼市(同)、北京市、成都市、広元市(四川省)、徳陽市(同)ら8市にて乳製品メーカー67社の200製品を対象に行った品質サンプリング検査の結果を発表、合格率は89%となったことを明らかにした。ラベル記載に不備のあるのが17製品あった。また、粉ミルク製品では大腸菌、亜硝酸塩の含有量が基準をオーバーするものもあった。不合格となったのは烏蘭察布市草原心楽乳業公司(内モン自治区)生産の「草原心楽」ブランドヨーグルト、臨潼乳品廠(陝西省西安市)生産の「驪山」ブランド粉ミルク、南山食品有限公司(湖南省)生産の「南仔」粉ミルク、雅士利乳業有限公司(広東省)生産の「雅士利」粉ミルク、海倫農場乳品廠(黒龍江省)生産の「三井子」粉ミルクなどだった。

◎畜産業の生産高が1.3兆元に

【経済日報 2006年09月06日】

農業部の張宝文・副部長は、全国畜産業の生産高は農業生産高の34%に相当する1兆3千億元に達したと発表した。農民の畜産業による収入は現金収入全体の30%相当の600元に上った。一部地区では畜産業による収入が現金収入の50%を占めている。2005年の全国食肉生産量は7743万キログラム、タマゴ生産量は2879万5千トン、牛乳生産量は2864万8千トンに達した。畜産業の急成長は飼料工業、畜産物加工業、獣薬、皮革など関連産業の発展も促しており、これらの2005年生産高は8千億元を超えた。国は今後、近代化大規模家畜飼育業の発展を奨励すると共に、世帯規模の小規模飼育も支援していく方針である(張副部長)。

また、牧畜法が7月1日から施行されており、畜産業経営の整備、畜産物の品質安全の確保に寄与している。

◎乳業大手の蒙牛、上期純利益が4割増の3.4億元記録

【経済日報 2006年09月07日】

乳業大手・蒙牛乳業股分有限公司(蒙牛)は、5日に半期決算を発表、上期の売上は前年同期比58.7%増の75億4640万元、純利益は同39.3%増の3億4340万元を記録、全国乳業界で最も急速な成長を続けていることを明らかにした。AC尼尔センの調査によれば、6月現在の全国牛乳市場における蒙牛のシェアは31.7%、目標としてきたシェア3分の1獲得をほぼ実現した。専門家らは蒙牛が急速な成長を続けていることについて、知的財産権を持つ技術の開発、ブランド確立を指摘する。蒙牛は3月、国家栄養センターの委託を受けた「OMP(Osteoblasts Milk Protein)造骨牛乳」研究を完了、世界で初めて骨密度を向上させる効果のある「特崙蘇OMP牛乳」を開発した。

また、全国の500カ所の小学校の児童向けに牛乳を1年間無償提供するなどブランドイメージ向上にも努めている。

◎日本が中国産ハチミツの検査を強化、クロラムフェニコール検出で

【国際商報 2006年09月08日】

日本の厚生労働省は8月29日、同日付けで中国から輸入するハチミツとその加工製品のサンプリング検査の割合を50%に引き上げることを決定した。8月25日、河南省から名古屋に輸入されたハチミツのクロラムフェニコール検査で0.0005PPMの残留量が確認された。日本の残留農薬規制強化策・ポジティブ制度ではハチミツからクロラムフェニコールが検出されてならないとされている。厚生労働省の統計によれば、日本の中国からのハチミツとその加工製品輸入は963回、3万5925トンに上っている。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により 翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て 独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。
--

